

第 144 回 近畿産婦人科学会会 学術集会

17.

兵庫、2021. 6. 19

抗セントロメア抗体陽性で体外受精により妊娠成立した 2 症例

寺脇 奈緒子、井上 朋子、森本 義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

症例 1 は 31 歳、症例 2 は 37 歳でともに他院で IVF 反復不成功のため初診した。ともに妊娠歴はなく卵巣予備能は良好であった。症例 1 は初回採卵で卵子の成熟障害と授精障害を認め、凍結胚は分割異常と分割遅延のある分割期胚 1 個のみだった。セントロメア型抗核抗体は 80 倍で、柴苓湯を開始した。2 回目の採卵では成熟障害と授精障害は認めたものの、良好な分割期胚 1 個を凍結した。凍結融解胚移植し、妊娠成立し生児を得た。症例 2 は前医でセントロメア型抗核抗体 640 倍と指摘されていた。柴苓湯とプレドニゾロン(PSL)を併用し 6 回の採卵、7 回の凍結融解胚移植を行い、妊娠成立し妊娠継続中である。ACA 陽性の症例は治療に難渋することが多いが、柴苓湯や PSL を併用し良好胚を獲得、妊娠することができた。